

三人姉妹互いに寄り添って立つ。

マーシャ　まあ、あの楽隊のおと！　あの人たちは発って行く。一人はもうすつかり、永遠に逝ってしまったし、わたしたちだけここに残って、またわたしたちの生活をはじめるのだけ。生きてい行かなければ……。生きて行かなければねえ。・・・

イリーナ　（あたまをオーリガの胸にもたせて）やがて時が来れば、どうしてこんなことがあるのか、なんのためにこんな苦しみがあるのか、みんなわかるのよ。わからないことは、何ひとつなくなるのよ。でもまだ当分は、こうして生きて行かなければ……。働かなくちゃ、ただもう働かなくてはねえ！　あした、わたしは一人で発つわ。学校で子供たちを教えて、自分の一生を、もしかしてわたしでも、役に立てるのかもしれない人たちのために、捧げるわ、今は秋ね、もうじき冬が来て、雪が積もるだろうけど、わたし働くわ、働くわ。・・・

オーリガ　（二人の妹も抱きしめる）　楽隊は、あんなに楽しそうに、力づくで鳴っている。あれを聞いていると、生きて行きたいと思うわ！　まあ、どうだろう！　やがて時がたつと、わたしたりも永久にこの世からわかれて、忘れられてしまう。わたしたちの顔も、声も、なんにん姉妹だったかとかいうことも、みんな忘れられてしまう。でも、わたしたちの苦しみは、あとに生きる人たちの悦びに変わって、幸福と平和が、この地上におとずれるだろう。そして、現在こうして生きている人たちを、なつかしく思い出して、祝福してくれることだろう。ああ、可愛い妹たち、わたしたちの生活は、まだおしまいじゃないわ。生きて行きましようよ！　楽隊は、あんなに楽しそうに、あんなに嬉しいそうに鳴っている。あれを聞いていると、もう少ししたら、なんのためにわたしたちが生きているのか、なんのために苦しんでいるのか、わかるよ。うな気がするわ。・・・それがわかったら、それがわかったらね！